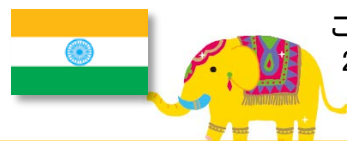


注目が集まるインド経済



ご参考資料
2015年5月

インドの経済成長率の高さは新興国の中でも目立っています。IMF(国際通貨基金)は4月に最新の世界経済見通しを公表しました。IMFはインドの経済成長が2014年から2015年にかけて加速すると予想する理由として、①モディ政権による改革、②投資の回復、③原油価格の下落などを挙げています。また、原油価格の下落は、実質可処分所得を増やすとともに、インフレ率の低下に寄与すると指摘しています。一方で、中国の2015年の成長率は、2014年の7.4%から6.8%に低下すると見込まれており、インドの成長率が2000年以降で初めて中国を上回る見通しです。

IMFのラガルド専務理事は3月に、2019年にインドのGDP(国内総生産)が2009年の2倍になるとの見通しを示しました。また、労働人口の増加の効果などもあり、同国の経済が世界経済の成長エンジンになり得るとの期待感を示しました。

このような状況から、インド経済への注目がますます高まりそうです。

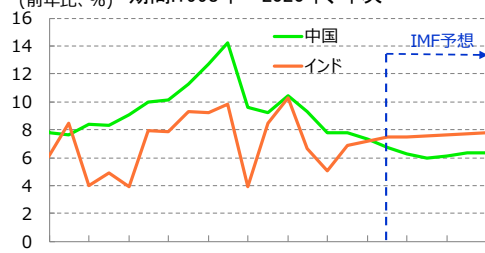
■主な新興国・地域の実質GDP成長率見通し(前年比、%)

期間:2014年~2016年
(IMF推計値含む。2015、2016年はIMF予想値。)

	2014年	2015年	2016年
新興及び発展途上国・地域	4.6	4.3	4.7
ロシア	0.6	-3.8	-1.1
中国	7.4	6.8	6.3
インド	7.2	7.5	7.5
ブラジル	0.1	-1.0	1.0
メキシコ	2.1	3.0	3.3
<ご参考> 世界全体	3.4	3.5	3.8
<ご参考> 先進国・地域	1.8	2.4	2.4

■インドと中国の実質GDP成長率の推移

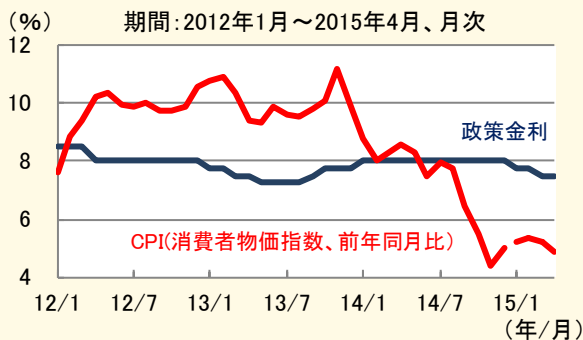
(前年比、%) 期間:1998年~2020年、年次



(出所)IMF「World Economic Outlook Database, April 2015」を基に野村アセットマネジメント作成

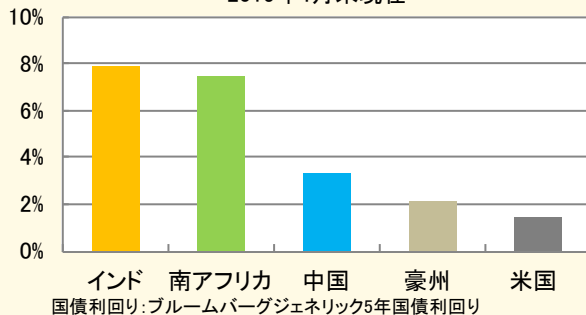
■政策金利とインフレ率の推移

CPIは2014年12月までは旧基準のデータ。



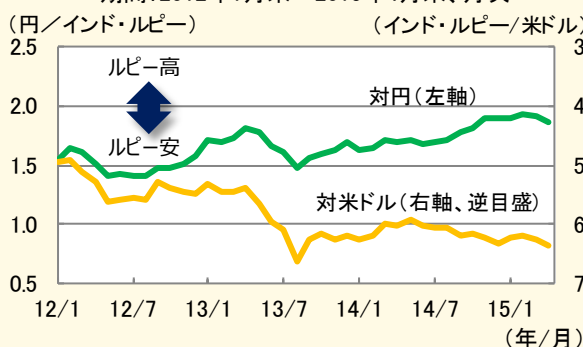
■各国の国債利回り比較

2015年4月末現在



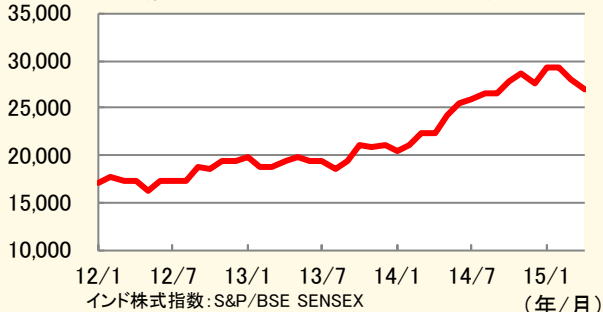
■為替の推移

期間:2012年1月末~2015年4月末、月次



■インド株式指数の推移

期間:2012年1月末~2015年4月末、月次



(出所)ブルームバーグデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。